

エコアクション 2 1 普及セミナー 20260826



株式会社菜の花エッグ
代表取締役 梅原 正一

E A 2 1 普及セミナー＞会社概要



エコアクション21

認証番号0014011



社 号	株式会社菜の花エッグ
H P	http://nanohana-egg.co.jp/
設 立	1991年4月1日
所 在 地	〒292-0501 千葉県君津市山滝野1121 T E L 0439-29-2880 F A X 0439-29-2780
代 表 者	代表取締役 梅原 正一
資 本 金	2,000万円 社員36名
飼 養 規 模	本採卵農場 採卵鶏 9万羽 有限会社鳥海ファーム 採卵鶏 7万羽
製 造 能 力	洗卵選別機 33,000卵/h・自動割卵機 7,000卵/h
配 送 車	8 t 冷蔵車×2台・2 t 冷蔵車・軽ワゴン
販 売 実 績	鶏卵販売数量 約2,500トン/年
取 引 銀 行	千葉銀行 商工中金 京葉銀行
主要取引先	パルシステム生活協同組合連合会・(株)シマダエッグ（コープネット事業連合）・ (株)富分・(株)高橋商店・(有)吉田商店・千葉セルコ・(株)三幸食品・三菱食品(株)
関連会社	(有)鳥海ファーム・(株)ゼンケイ・(同)Z-LABO L L P 菜の花フーズ（匝瑳ジーピーセンター・山岸要商店・北川鶏園・宮本養鶏）
加入団体	全国養鶏経営者会議・千葉県農業協会養鶏部会・日本農業法人協会 千葉県中小企業家同友会・君津商工会議所・君津観光協会・東京都中小企業家同友会

2005年経営成文化セミナー受講

- 私たちは、**鶏卵生産者として**、日本の食生活に果たす大切さを認識し、高品質で安全性を追求した生産を行い、食卓に安心できる「美味しさ」と「健康」を届けします。
- 私たちは、**千産千消**に取り組み、人と人との繋がりを大切にし、協力し合い、**地域社会の環境保全・食文化・食育**に貢献できる人間集団を目指します。
- 私たちは、人間として能力・可能性を高めるため、コミュニケーションを実現の場とし、**共に成長**し続けます。

Ready to Enjoy!

生活者の家事を応援する

食事の楽しさを未来に繋ぐ

親子のコミュニケーションを繋ぐ



「環境への取組方針」

私たちは、**鶏卵生産者**として、地球環境問題に多方面からアプローチし、持続可能な社会実現のため積極的に全社で取組みます。

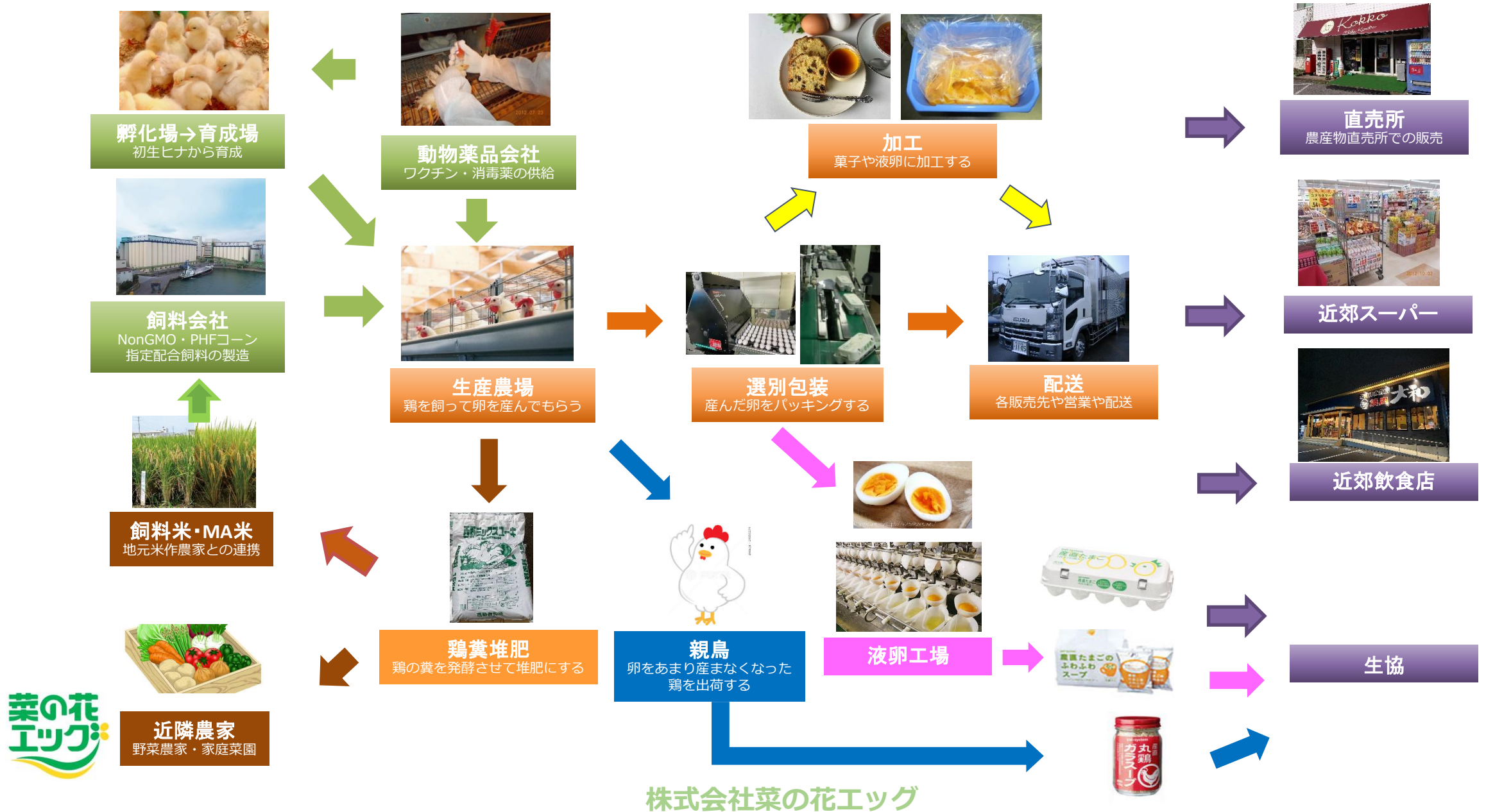
「環境保全への行動指針」

1. 事業に関わる**環境関連法規制**を遵守し、社会的責任を果たします。
2. 電力・燃料による**二酸化炭素排出量の削減**に取り組めます。
- 3. 廃棄物の削減**とリサイクルと適正処理を推進します。
4. 節水行動や作業改善で**水使用量を削減**します。
5. 最新養鶏栄養学を利用し飼料効率を上げ、**飼料用米・未利用資源の利用を増やします。**
6. 地域の環境活動（資源ごみ回収）に積極的に参加します。

この環境方針を**全従業員**に周知し、教育啓発活動を実践していきます。



E A 2 1 普及セミナー＞養鶏産業の関係マップ





新設備計画

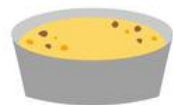
自然災害

- 2014年：大雪－1棟鶏舎倒壊
- 1017年：台風－1棟鶏舎倒壊
- 2019年：2度台風－4棟鶏舎倒壊 停電

原材料選択

飼料穀物 2 倍に高騰

- 2008年：リーマンショック
- 2020年：ウクライナ侵攻による
サプライチェーン寸断



維持コスト

光熱費の急騰

- 2011年：東日本大震災原発停止
- 2022年：原油急騰

コスト競争して良いたまごを作る疑問？

環境への取組は必須

コスト競争ではなく持続可能なたまごの生産・経営

原価を下げる競争	vs	環境を付加価値に
生産効率重視	vs	人と鶏重視の生産環境
価格重視で原料選択	vs	地域からの調達
資源は無限	vs	有限・CO2排出量



人+エコ

- 木造構造の鶏舎
- 自然に近い飼養環境での生産
- 自動センサーの鶏舎温度調整
- 夏場の水冷式クーラー設備
- 農場管理者の働く環境改善
- 完全2日/週が実現
- 地域新高卒採用が全社員の3割



商品＋エコ

- 包装資材を紙パック商品
- 地元PRした商品
- 分解酵素で飼料吸収率向上
- 国産飼料原料を使用
卵殻・エコフィード・飼料米
- ちばのこだわりプリンピーナッツ
- 蔵出し酒かすチーズケーキ



地域＋エコ

- 千葉県産飼料米を使用
- 日本の食料自給率向上
- 地元新卒高校生採用
- 地元スーパーと飲食店の連携
- 養鶏同業者間でのBCP構築
- 太陽光発電でエネルギー循環
- 地域団体との地域活性



E A 2 1 普及セミナー＞鶏糞の全量堆肥化



近隣農家へ
循環



株式会社菜の花エッグ

E A 2 1 普及セミナー＞2025環境負荷の取組

二酸化炭素排出量	電気由来のCo2排出量が5月ー10月に大きく増加し、2025年11月より、太陽光発電を増設したが年間の電気使用量を押し下げるまで効果がなかったため、全体目標は未達に終わった。
運搬車輛の軽油使用量	2025年1月よりAI(鳥インフルエンザ)が発生した農場の支援のため製造応援をし、そのため5月～9月まで配送ルートが増え軽油使用量が増加した。
電力使用量	2025年10月末に太陽光パネル(19.5kwh)を増設 直売所2FLED化 5月～9月の猛暑・夏季の鶏舎がフル稼働により電力使用量の増加
廃棄物排出量	工場由来の廃棄物分別の結果、減少し達成できた。
水使用量	日々の節水行動により達成
AーPETパックの使用量	A-PET商品パックの取引先の産地が鳥インフルエンザ発生の為、今年1月より9月まで製造応援していた為増加したため未達となった。
環境美化活動	会社周辺の清掃や草刈り、掃活動、地域の一斉清掃への協力も積極的に行い、社会貢献活動実施した。

項 目		単位	2025年度 目標	2025年度 実績	達成 状況	評価
二酸化炭素の排出量		Kg-CO2	379,799	408,236	107.5% 7.5%増	×
運搬車輛の軽油使用量		ℓ	45,986	46,771	101.7% 1.7%増	×
電力使用量		KWh	499,468	556,199	111.4% 11.4%増	×
廃棄物	産業廃棄物 (鶏糞)	t	鶏糞全量堆肥化	鶏糞全量堆肥化	達成	○
	産業廃棄物 (工場)	kg	819	715	87.3% 12.7%減	○
水使用量		m³	1,710以下	1,653	96.7% 3.3%減	○
A-PET使用量		t	24.43	27.88	114.1% 14.1%増	×
地域の環境美化活動			実施	実施	達成	○

E A 2 1 普及セミナー＞2025環境負荷の取組

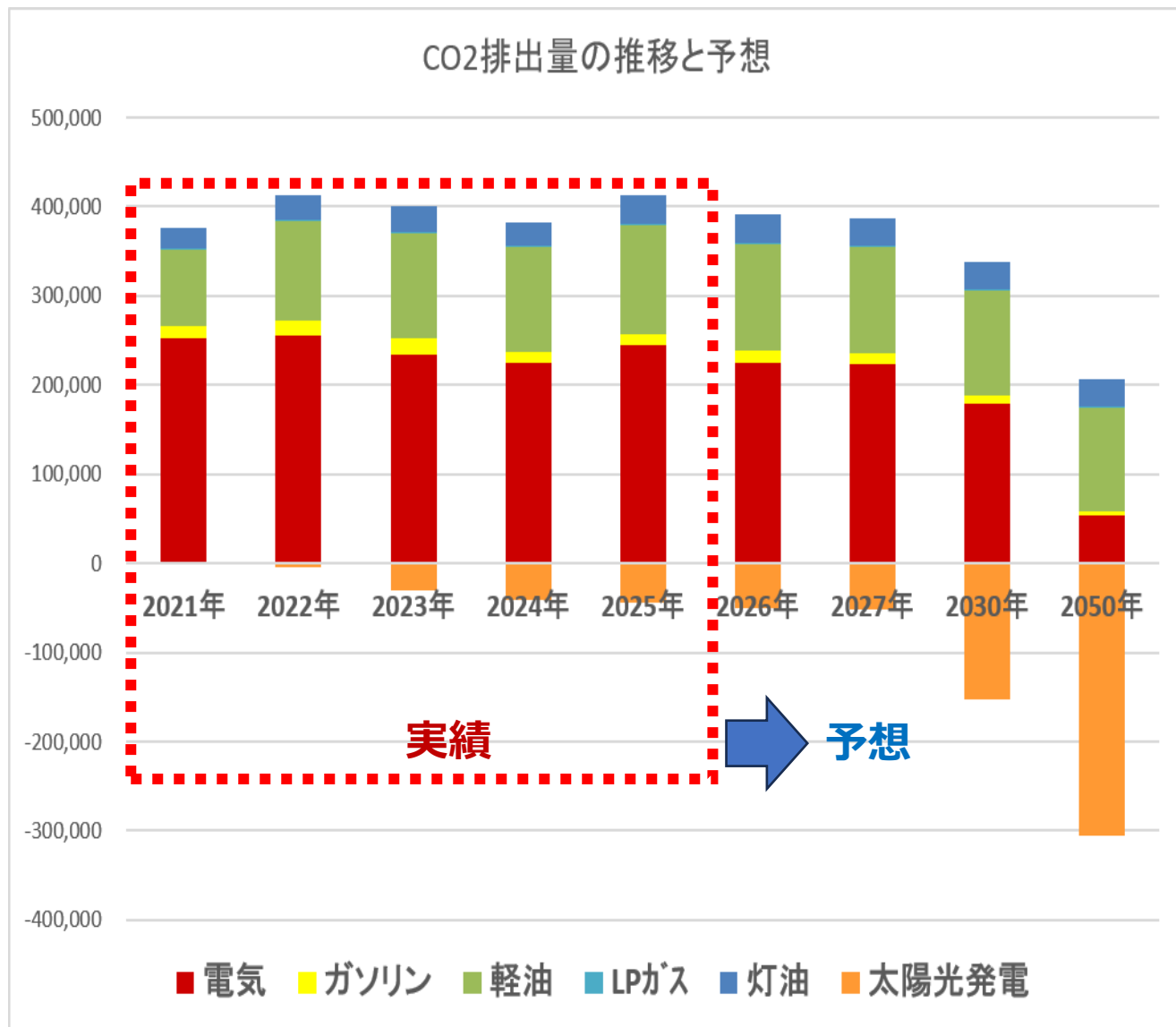
環境経営目標		取組	結果	次年度の取組
1	軽油使用量の削減	①エコドライブの実施	○	継続する
		②アイドリングストップの徹底	○	継続する
		③定期点検の徹底	○	継続する
		④配送状況の見直し実施	△	継続する
2	電気使用量の削減	①鶏舎内温度の適正温度	○	継続する
		②G Pセンター内の適正温度	○	継続する
		③不用箇所の消灯徹底	○	継続する
		④太陽光発電の自家消費とメンテナンス	○	継続する
		⑤電力消費量グラフで最大ピークを確認する	○	継続する
3	二酸化炭素排出量の削減	上記 1, 2 の削減活動を以って取り組む	○	継続する
4	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	①鶏糞の堆肥化(全量堆肥化し肥料を販売)	○	継続する
		②包装資材の再資源化	△	継続する
		③OA 用紙使用量の削減	○	継続する
		④分別・リサイクルの実勢	○	継続する
		⑤一般・産廃分別	○	継続する
5	水使用量の削減	①節水アイテムの導入	○	継続する
		②節水教育及び適正使用	○	継続する
6	製品・サービスの環境負荷低減（A-PET パックの使用量を削減）	①A-PET パックの使用量を削減	△	継続する
		②A-PET パック破損数の削減	△	継続する
		③モールドパックの商品への変更	△	継続する
		③飼料要求率の向上	△	継続する
7	地域の環境美化活動	周辺地域の環境美化活動	○	継続する



結果の記号：○-----取組んでおり問題なし △-----取組んでいるが一部まだ問題がある
×-----未実施



E A 2 1 普及セミナー＞CO2削減の効果と実証



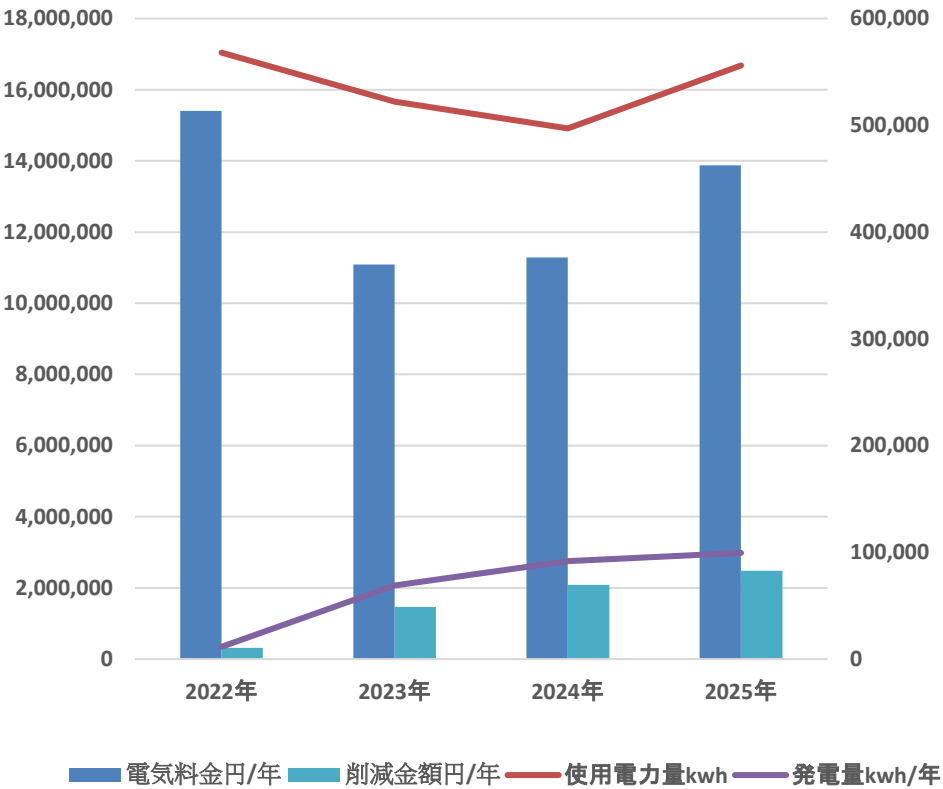
- 電気由来が60%
- 太陽光発電は使用量15%
- 2023年2月太陽光発電64kwh
- 2024年5月太陽光発電19kwh
- 2025年10月太陽光発電19kwh
- 2026年10月太陽光発電38kwh
設置予定

しかし

- 酷暑により電気使用増

E A 2 1 普及セミナー>電気料金と電気使用量

	電気料金 円/年	使用電力 量kwh	単価円 /kwh	発電量 kwh/年	削減金額 円/年	再エネ 率
2022年	15,403,770	568,090	27.1	11,520	312,365	2.0%
2023年	11,091,068	522,098	21.2	68,820	1,461,962	11.7%
2024年	11,287,000	497,089	22.7	91,750	2,083,293	15.6%
2025年	13,880,198	556,199	25.0	99,487	2,482,743	15.2%
合計	51,662,036	2,143,476	24.1	271,577	6,340,363	



ちばSDGsパートナー登録制度

SDGs達成に向けた経営方針等

ちばSDGsパートナー登録証



登録番号222

私たちは、鶏卵生産者として持続可能な社会を実現するためにSDGs推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、行政、学校等と連携を進めていきます。

1. 環境に配慮した生産活動を行うために電力の再生エネルギーを推進します。
2. 地域の中核的な中小企業を目指し、安定的な鶏卵生産に取り組めます。
3. 地域行政、地域消費者との持続的な交流を続け、地産地消や食育活動に取り組めます

E A 2 1 普及セミナー> ちばSDGsパートナー登録制度> 環境



太陽光発電を増設し、電力を自家消費とし、再生エネルギー100%を目指す。

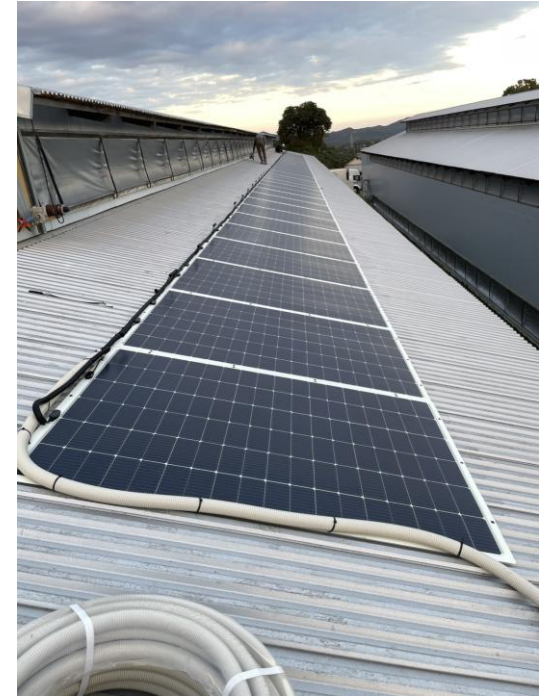
電力の再生エネルギー率（2024年:15%⇒2029年25%）



2023年2月太陽光発電64kwh



2024年5月太陽光発電19kwh



2025年10月太陽光発電19kwh

E A 2 1 普及セミナー> ちばSDGsパートナー登録制度> 社会



地域・消費者との持続的な交流を続け、現場の公開・産直、食育勉強会を実施する。
食育活動の実施 (2024年:5回⇒2029年12回)



商品展示会に出展

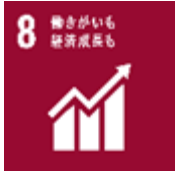


たまご産直連続講座



地域ファームフェスタに出店

E A 2 1 普及セミナー> ちばSDGsパートナー登録制度> 経済



常に最新養鶏栄養学を利用し飼料効率を上げる。

飼料用米・未利用資源の利用。

飼料米・未利用資源の飼料化（2024年:20%⇒2029年30%）



飼料米・未利用資源の飼料化
（食品残渣・卵殻の飼料化）



飼料要求率の向上
（繊維分解酵素を利用した最新
養鶏栄養学の採用）

事業継続力強化計画（事業連携型）BCP

2007年10月設立

県内生協出荷している5件の養鶏家

- ・ 鶏卵の需給調整
- ・ 共販体制
- ・ 商品開発
- ・ 共同仕入
- ・ 情報交換



- ・ 商品規格の統一
- ・ 需給生産調整
- ・ 鶏インフルエンザでの代替生産
- ・ 自然災害での代替生産
- ・ 緊急時自家発電機の共同リース





2050年を再エネ100%達成年目標とし、自家消費型太陽光発電設備の増設、蓄電池の導入、グリーン電力の購入に取り組んでいきます。



太陽光発電



ボイラーの防断熱



空調機の更新と
室内外機の清掃



全てLDE化

E A 2 1 普及セミナー> オブザイヤー2025(ソーシャル部門) 優良賞受賞



認証・登録証

認証・登録番号 0014011

認証・登録事業者 株式会社菜の花エッグ
千葉県君津市山鹿野 112-1

事業活動 採卵・鶏卵の生産・加工販売、液卵の加工販売、飼料の販売、
肥料の販売

対象事業所 本社・工場

認証・登録日 2023年10月3日

更新・登録日 2025年10月3日

有効期限 2027年10月2日

上記事業者は「エコアクション21ガイドライン2017年版(環境省)」の
要求事項に適合していることを証します。

一般財団法人 持続性推進機構

理事長 森本英香



表彰状

優良賞

株式会社菜の花エッグ 殿

あなたは「エコアクション21 オブザイヤー
2025(ソーシャル部門)」において顕著の
成績をおさめられましたので賞します

令和8年3月21日

一般財団法人 持続性推進機構

理事長 森本 英香



—— 地域循環をデザインし、次世代につなぐ食づくり企業 ——

地域の食を守り、
仲間と共に育ち、
未来へ責任を果たす企業であり続ける
企業を目指します。



THANK YOU

ご清聴ありがとうございました



株式会社菜の花エッグ

代表取締役 梅原 正一

www.nanohana-egg.co.jp